

日本チームが初 世界伐木チャン

WLCは1970年に旧ユーゴスラビアとハンガリーで第1回大会が開催されて以来、91年以降は2年ごとに開催され、今年はクロアチアで第29回大会が9月23〜27日までの4日間開催される。

今回、ハスクバーナー・セノア（埼玉県川

メンバーから選出。今回の5人は、日本国内で上級者向けのハスクバーナー・トレーニングを受講、WLC出場に向けてオランダでのトレーニングキャンプに参加する。チーム・ハスクバーナーのメン

バーは、14日に林野庁の島田長官を訪問、激

田貢氏（青森県森連）、気田均氏（八戸市森林組合）、前田智広氏（前田林業）、選手・ジュニアクラス白川弘樹氏（白川林産）、テクニカルリーダー小田桐久一郎氏（青森県国有林材生産協同組合）、チームリーダー木村和恵（ハスクバーナー・セノア）。

組みに着手した。協議会では太柱を特徴とした独自の木造軸組住宅モデルを設計、併せて杉ラフス板を基本とした耐力面材を開発した。今後、JASに基づいた品質保証、また森林認証のCOC認証なども取得していく。

久万材の家づくり推進協議会は、久万高原

研究会、東京大学生産技術研究所、雇用・能力開発機構愛媛センター、四国職業能力開発大学校の各研究機関と連携する。地産地消活動を目指し09年に発足。

久万材の家は愛媛大学農学部を中心とした木材と木造住宅の研究が監修し、県産の杉中目材を積極的に使う

んだんに採用。また壁は貫構造を特徴とし、杉ラフス板乾燥材を独自手法で組み合わせ耐力壁構造とし、合板代替とする。構造材等の供給は久万広域森組をはじめとした地元製材工場、人工乾燥についても同森組の加工事業所を活用していく。

耐力壁については既に性能評価予備試験を終了し国土交通省への普及に

今後はタイプムマニ構造材化、来原町に設ける産地消内需要重点的年度か施主向ミニナー

特殊ポリマー充填の 木質マスターペレット開発

強度低下せず、臭いも発生しない

宮坂木材産業

木質樹脂ペレットによる製品開発を行っている宮坂木材産業（和歌山市、宮坂雅博社長）は、木粉に特殊ポリマーを充填した新しい木質マスターペレットを共同開発した。同製品はポリプロピレン、ポリエチレンなどの汎用樹脂と混合する場合に溶解性が高い、木質部分が分離しやすい、木質樹脂の欠点である強度低下がほとんど起きないといった特徴を持つ。同社では木質マスターペレットでの販売と樹脂を混合した木質最終製品双方で市場開拓を進めていく方針。

同社はかねてから他社にない射出成型方式で木質ペレットと汎用樹脂を混合させた木質製品を開発してきた。しかし、既存製品は木粉率が高くなると流れが悪化し滑らかに拡散しないこと、高温成型時の臭いがきつことなどの問題点が指摘されていた。このため改良を進め、低融点ながら硬くなる特殊ポリマ

ーを発見、木粉に充填する新しい木質ペレット製法を考案した。新規ポリマーは低温で木粉と混合することができ、熱を加えないため木粉が炭化しないことから臭いが発生しない。木材の風合いも維持できる。このポリマーは溶解しやすく、木粉内部に浸透していくことから、木粉に流動性と相溶性を持たせることができる。同社では新開発の木質樹脂マスターペレットの製法等に関し、サンキョー化成（和歌山県海南市）と共同で特許出願した。製品名は「SMCP1」。



原料となる木粉（写真）は、和歌山県森連御坊事業所に新しく建設された間伐材を原料とした木粉製造工場が供給。同工場は燃料用木粉製造が主体だが、同社向けに木質ペレット用木粉の供給も手がける。木粉品質管理がしっかりとしており、

数十ミクロンの粒度でばらつきが小さく、含水率も4%前後で安定している。汎用樹脂と混合、射出成型した製品は、ペレットの溶解性が高いこと、樹脂と木質部分が分離しにくいこと、木質樹脂特有の臭いを緩和できること、滑らかに分散・拡散できることなどの特徴を持つ。

同社では今後、この特殊ポリマーを充填した木質ペレットSMCP1の販売を主力に、自社でも汎用樹脂と混合した製品開発を進めていく。



腐れや変色など木材がもつ欠点をカバーするため木材用保護剤を30年間にわたってコツ

は、この薬剤で木材用材と用し、暖化防しでもていきと、こ家は話

コツと開発してきた老研究家が、集大成として多機能塗料を完成させた。

10分間弱浸漬させるだけでホルムアルデヒドなどの有害物質を除

加州市保護剤